

穿刺吸引細胞診（阪大方式）

特殊な器具が不要・一人でできる・痛くない・正確

【用意するもの】

10ml シリンジ（22G 針付き） 固定液（サイトロップ等） スライドグラス
アルコール綿

【準備】

エコープローブを横にした時の頭側の真ん中にマジックで印をつける。
患者にエコーを当てて、結節がプローブの真下にくる位置を決める（プローブをずらしながら見ると結節が引っ張られることがあるので一度プローブを離して当て直して確認）。
その位置にマジックで少し印をつける。

【穿刺】

針を蓋を取って準備、穿刺位置を消毒（印の上から消毒するが印は完全には消えない）
患者につけた印を目安に右手でプローブを当てて、結節が真下にあることを再度確認。
左手に注射器を持ち、プローブの真ん中を目指して一気に針を入れる。
（この時、針先は通常見えない。画面が揺れるのでその中心に針がある）
プローブから右手を離してシリンジのピストンを2ccほど吸引して陰圧をかける。
両手で針先を微妙に振動させ細胞をこそぎ取る（数秒）。
血液が流入しないうちに陰圧を解除。
針を抜いてアルコール綿で押さえる（患者に自分で押さえてもらってもよい）。

【検体処理】 すぐに行う。10秒以内に完了すること。

針を外してピストンを引き、再び針をはめてスライドグラスに一気に吹き付ける。
もう一枚のスライドグラスを垂直に押し付け、細胞を広げる。
一枚に固定液を十分にかける。

*血液が多い場合はキムワイプ等に吸収させて減らす。

*のう胞の場合はピストンと20mlのシリンジを使用して吸引。検体は一部採取して1.5mlのチューブで遠心（最高速で数秒で良い）、上清を捨てて、ピペットで沈渣をスライドグラスに落とし、前記と同様に処理する。

*TFF3 mRNAを計測する場合は、穿刺で使用した針に残っている細胞を溶血試薬で洗い出した後、RNA保存液に全量移す。4℃保存。

○練習する時は2%寒天を作成して針の見え方を確認するとよい。